



TITLE:

アメリカの大学の図書館のことなど

AUTHOR(S):

梅本, 実

CITATION:

梅本, 実. アメリカの大学の図書館のことなど. 静脩 1977, 14(2): 3-4

ISSUE DATE:

1977-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36770>

RIGHT:

アメリカの大学の図書館のことなど

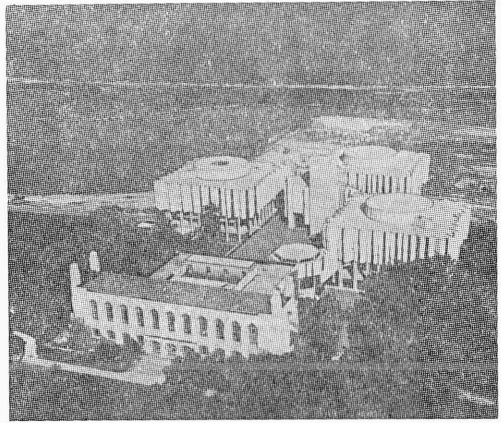
梅 本 実

アメリカの大学図書館について何か書いて欲しいという事で私の経験など2, 3書いてみます。

私は京都大学大学院修士課程に入学した年、つまり昭和46年の秋にアメリカに渡り Illinois 州 Evanston にある Northwestern 大学に1年間在学しその後同じ Illinois 州 Urbana-Champaign にある Illinois 大学で博士課程の学生として4年余り過ごした。

最初に在学した Northwestern 大学はシカゴのすぐ北にあり、Michigan 湖に面した美しい建物の多い大学で、1851年に創立され現在6,500人の大学生と、2,400人の大学院生を有し全米にも有名な大学である。この大学の Evanston Campus には工学、音楽、天文学、生物学、地学、数学の図書館と、3,200人が一度に読書できる総合図書館があった。

工学部の図書館は Technological Institute の巨大なビルの3階と4階にあり、3階の入口を入ると天井の高い大広間になっていてたくさんの学生の熱心な勉強する姿が目飛びこんでくる。その一番奥にカウンターがあり回転式のバーを入るとそこが書庫兼閲覧室になっている。この図書館には97,000冊の本があり2,600種の定期刊行物を受け入れている。閲覧室は細長く3階建になっており、本棚の並ぶ横に机がずらっと置いてあり、書庫の中でも十分読書ができるようになっているのは非常に便利だった。本の貸出しには身分証明書(I.D.カード)が必要で、プラスチック製のそれは又コンピューターにかかる一種のパンチカードでもあった。従って本の貸出しには紙に何か書き込んだりする手間はいらず、非常に簡単であった。貸出し手続きが終ると出口の回転バーが動くよう係員がボタンを押してくれる。たとえ何も



借り出さない場合でも係員が確認してボタンを押さないかぎりそこを通れないようになっており、監理体制は厳重であった。この工学部の図書館は夜12時まで利用でき、試験前になると閉館まで多くの学生の姿が見られた。

一方、Illinois 大学はシカゴから南130マイルの広々と広がるとうもろこし畑の中の、Urbana と Champaign という2つの隣接した市にわたってそのキャンパスが広がっている。全学生数32,000人、うち大学院生8,400人で全米でも5番目くらいに大きい大学である。人口が97,000人の Community にそのように大きな大学があるため、大学が町のほとんどといった感じでもある。ここの大学の図書館は全米でも指折り、その蔵書数は440万冊以上にものぼるそうである。大学のほぼ中央に Main library がありその他に工学、化学、物理、数学など18の学部が独自の図書館をもち、さらに4年生までの学生用の図書館もあった。

Main library には歴史学、哲学、古典、商業、英文学など主に人文科学系の学部の本が中心に収められているが、それ以外に館内には News pa-

per と Far eastern library がある。News paper library には世界各国の主な新聞がととのっており、日本からは「朝日」と「日経」が約1月遅れで届いていた。ここの library は研究用資料としての利用もさる事ながら、世界各国からの留学生にとっては母国からのニュースに接する憩いの場所でもあった。Far eastern library には日本、韓国、中国の3ヶ国の図書が豊富に収められてあった。日本のものでは各種年鑑や白書それに「中央公論」「文芸春秋」などの月刊誌や「朝日ジャーナル」等数種の週刊誌もあり、東洋文化を研究している学生によく利用されていた。

私が学習や研究に主に利用した図書館は、Engineering Hall の中にある工学部の図書館でそれ以外に物理、化学、数学の図書館にも時折足を運んだ。それらの図書館で気づく事は、アメリカの学生は図書館を実によく利用するという事であった。これはまずアメリカの大学教育が非常に活発で宿題が頻繁に出され、さらに学生が独自に勉強し、自分の納得のいくまで理解する事が要求され、自分が興味を持った分野にどんどん深く立ち入っていく事が期待されている事にその原因があるようだ。学生として授業に出ると、まず初めに教科書と参考書の紹介があり、たいていの学生は近くの本屋で教科書を買って求めるが、本の値段

の高いアメリカでは参考書を買う学生はほとんど見あたらない。そこで参考書類は図書館を利用するという事になるわけだが、できるだけ多くの学生に利用できるように Reserved Books という制度がある。これは参考書として指定された本の貸出しを禁止し、図書館の閲覧室でのみ読めるようにするもので、この事が図書館で勉強する学生が多いもう一つの原因にもなっている。

ところで理工系の図書館を利用して気づく事は、日本で出されている欧文雑誌はほぼあらゆる分野でそろえられている事である。しかしながらこれはある意味で当然な事であるかもしれないが、ドイツ語やロシア語の雑誌が数多くあるのに対して、日本語で書かれた雑誌はほとんどその姿が見られないというのが実情である。

Illinois 大学の図書館の本の貸出しには、身分証明書と図書館利用の為のカードが必要で、又貸出しカードに一つ一つ書きこむなど全体的に旧式のものであった。しかし私がいる間にも少しずつ改良され、コンピューターの導入の為身分証明書がコンピューター読みとり可能カードに改められ、又一部の図書館では、本の番号を自動的に読みとる装置も導入されて新しい波が来ている事は明らかであった。

(工学部助手)

図書室めぐり

農 学 部 図 書 室

1. 図書室の機能

図書館機能は学部主題分野についての研究図書館機能と共に、学部学生、大学院生のための学習図書館機能を兼ね備えているが、学部がもつ性格として研究に重点をおく、むしろ研究図書館としての機能に中心をおいている。

2. 図書、雑誌等図書館資料の集中化

研究領域の限らない拡大と同時に、研究は学際

的傾向にあり、また一方ではより細分された主題への専門化が進みつつある。このため図書館資料の充実や、参考業務の内容が多岐多様化することになり、図書館としてこれに対処しなければならない。とすれば農学部図書室は、従来のように1つの中央図書室と複数の教室図書室等で構成され、また資料がそれぞれに分散配置されている状態では、研究者等図書館利用者に不便であるばかりで